

その他（炎症・免疫）

	項目	説明
炎症	CRP	<p>炎症※¹や組織破壊により血清中に増加するたんぱく質です。炎症が起こった時に24時間以内に急増します。健康時には血液中にほとんど存在しないので、検出されれば体のどこかに炎症か怪我など、細胞が壊れる状態があることを示します。</p> <p>炎症が落ち着いたり、怪我が治ると、CRPも基準値内になるため、炎症の重症度や治療効果の判定に大変役立ちます。</p>
免疫	リウマチ因子（RF定量）	<p>リウマチ因子はIgGに対する自己抗体です。</p> <p>他の自己免疫病や肝臓病などでも陽性になることが多く、健康者でも加齢により陽性率が上がります。従って陽性でも関節リウマチ※²とは限らないため、確定するにはさらに詳しい検査が必要です。また、リウマチ因子は自己抗体の一種で、関節リウマチの発症早期では陽性を示さないこともしばしばあります。</p> <p>陽性の場合、関節リウマチ以外に、全身性エリテマトーデス（SLE）、強皮症、皮膚筋炎、シェーグレン症候群、肺線維症、ウイルス性慢性肝炎などが疑われます。</p>

※1 炎症

炎症とは、疼痛、発赤、腫脹、熱感など症状があり、臓器や組織の動きが損なわれる状態です。

※2 関節リウマチ

最も多くリウマチ因子が陽性になる病気です。関節側面を被う滑膜に炎症が起こり、徐々に関節に炎症が拡がって骨が破壊され、関節が変形して、動きにくくなる（拘縮し可動性が失われる）病気です。